



う郷土を愛し郷土のために社会奉仕をしている青年の団体があり、私は現在その会員であるので、その会歌を歌いますと、臆面もなく二番まで歌った思い出がある。それがきっかけでか、衛生課から指導員として来ていた、立木さんと言う人に認められ、帰村してからも当分の間、立木さんと文通を交わしたものでした。

そんな事も、村で愛郷会に入り自然会長初め会員の皆さんから、人の前で話など出来るように触発されていた訳です。

私が昭和十八年に日記を書いていたので、愛郷会に關した事項を抜き書き、列挙させて戴き当時の会員の活動生態など知ってもらえたいと思います。

昭和十八年一月十六日(土曜)曇

今夜、愛郷会の例会あるつもり。(筆者注、あるつもりと書いてあるのが私が出席しなかったらしい)

一月廿一日(木曜) 大晴

夜警の慰労金として愛郷会、嘉瀬区長より拾円也。明日貯金の予定(筆者注、貯金の予定とあるので私が愛郷会の会計をやっている)

一月廿九日(金曜)曇

村長(会長)新任披露会、午後三時より村長宅で、役場、農会全部行く。

二月五日(金曜)晴

日食、朝の七時頃から八時頃まで

愛郷会例会に行かない、会員に済まない。

二月六日(土曜)晴

晩、早速村長(会長)さんより愛郷会の例会に出席しなかった事を叱られる。申し訳なし。

二月十七日(水曜)曇

晩、愛郷会の例会。意見発表で詩吟を歌う。明日、雪道の除雪を決める。

二月十八日(木曜)淡雪

愛郷会員の除雪へ参加。六時半原辰の角へ集合の予定を餅二臼搗かされて七時半頃に出る。吹雪もなんの我らには誠の精神あり！溜池のところは早く雪が消えるので、約二尺位の高さに雪を掘り積み上げる。吹雪の中を唯もくもくと、実に頼もしいかな我が会員。顔にクリームをつけて娘を追っている若者に我らの此の働きぶりを見せたいもの。全じ若者でも天地の差あり。終了後会歌を歌って帰る。(筆者注、随分と気取っている)

三月一日(月曜)曇

愛郷会例会、出席八名。それぞれ意見発表。国春君と二人で「国思ふ」の紙芝居をやる。会長の講演いつ聞えても頭にピンとくる。

この半分でも村民達が分かってくれたらと思ふ。

会長供出米の事で本町常会へ行くのでと、途中で帰る。後は我々の座談、どうしても青年学校の事へ話がゆく。不出席の生徒のことなど。

三月十五日(月曜)晴

愛郷会例会、午後七時十分頃より、小山内嘉一郎詔書読む。俊蔵遅れてくる。意見発表それぞれ出る。僕は意見が不向きなので、ハイモニカで愛郷会歌を吹く。話が下手なので詩吟とか、こんな事に向く。今度(四月一日)の総会には頑張っって何かやるつもりだ。俊蔵。嘉一郎は年長者だけあって意見など上手だ。但し俊蔵の意見あまり長いのもどうかと思う。明日の本街道の馬糞集めなど決める。

三月十六日(火曜)晩、雨淡雪

午後七時より愛郷会で道路の馬糞運びをやる予定だが、風邪気味で雨や淡雪が降っているので行かぬ。惣之進も聞きに来たが、会員も休んだことだろう。

三月十七日(水曜)曇

山市代理宿直、昭人も泊る。役場へ丹前を置いて国春とスコップを担いで村道へ急ぐ。

馬糞除けに小雨をおかして、もう会員が盛んに頑張っている。鍬、スコップ、エビ等で忽ち馬糞の山、五つ六つ出来上がる。

三月十八日(木曜)晴

午後四時より昨日の晩集めて置いた馬糞運び。馬糞四台で(俊蔵の馬、光治の馬、輝雄の馬、嘉一郎の馬)この忙しいところを有り難し、会員十三名で役場前へ運ぶ。立派な堆肥の盛りとなる。この盛りが腐ればいい肥料となる。又農会より供出米運搬協力費として二十円也貰う。晩飯も食わず九時まで頑張り村長(会長)より特配のうどん二把つつ貰い、それぞれ月の夜を戻る。

三月廿一日(日曜)春季皇霊祭、晴

愛郷会総会記念品として「ノート」を買う一冊七円五〇銭、十五冊、五所川原小関書店より

四月一日(木曜)晴

嘉瀬村青年愛郷会第十周年記念総会、午後七時半より役場二階、来賓、花菜区議、今清作、蛸島一。会長挨拶、記念品贈呈。会員全員の意見発表。皆美に頼もしい意見。新入会員紹介、山中秀四郎、吉崎兼雄、浜田常雄。欠席者鈴木俊才、中村喜代治。時間を忘れて語り合う。

四月十六日(金曜)曇

四月十八日(日曜)晴

愛郷会。道路排水掘り、役場前の開墾と、二組に分かれて、私は開墾組、硬い赤い土をもくもくと起こす。昼の疲れもなんのその秋は大いに馬鈴薯の収穫をあげるつもりだ。

四月廿日(火曜)晴

今晩青年学校休みなので、愛郷会の開墾地の畑作り、堆肥は便所の後へ移す。堆肥の中はもう相当腐っている。会長来てくれる。朧月我らへの振る鍬に光っている。昼疲れて夜またこんな仕事をするのも本当に苦しい事だろうが、皆んな唯黙々と働く。九時半過ぎ会歌を歌って散会。秀四郎、惣之進、兼雄、安兵衛の紙芝居見るとかで来ない。

四月廿四日(土曜)晴

晩、役場前の愛郷会の畑打ちへ。今日はどうゆう訳か会員達仕事に身が入っていない。半鐘鳴る。皆んなびっくり、警防団の演習との事。

四月廿五日(日曜)晴

晩、青年学校休みであるので、愛郷会の畠の畝作り、堆肥も入れあと薯を植えればよばかり。自分の意見を通したため、会員とそれぞれ衝突したりする

四月廿九日(水曜)晴

午後六時打ってから嘉一郎君と長富の太田定市宅へ愛郷会の種薯を受領にゆく。

四月三十日(金曜)曇

晩はまた愛郷会の芋植えへ。青少年団役員会に嘉一郎さんに行っても

らい他は植え初める。雨の降るような空なので急いで植える。会員十名、芋を切る人、(下肥)を汲むもの等、それぞれ頑張り終える。

五月一日(土曜)曇

夕べ真っ暗なところで畠へ芋を植えたのだが、朝見ると面白いくらい上手に植えている。

愛郷会の例会、会長出席せず。決めた事は五月五日の神楽の日午後より愛郷会の山へ造林の事、又記念写真の事など、夕べの慰労として余った芋を皆で煮て食う。

五月五日(水曜)曇

午後より愛郷会の山へ造林へ(松苗)輝雄、光治、国春君三名欠けた外全員集まる。肩にトガ(唐鍬)など担いで皆んな足取りも怪しい。八幡宮の神楽で若者は休日なのを、会員達は気にかげずお山の大将へ。曇り空だが、松苗を植えていて盛んに汗が出てくる。終る頃下の三左衛門溜池を蛇が泳いでいるので、長三郎君と俊蔵君と僕と三人降りてゆき、蛇をとうとう生け捕る。会員にかかったら蛇も形なし。

役場前に帰り松尾写真館に来てもらい写真を撮る。

造林の人散らばれる春の山 孝人

五月十六日(日曜)晴れても寒い

晩、愛郷会例会、秀四郎、兼雄行かぬ、惣之進と二人で、今晚は会長来て下さる。何十日ぶりかで元気な会長の戦話など聞く。寒いのをみんな我慢しながら

五月二十日(木曜)曇

待ちに待った愛郷会十周年記念の写真が出来てくる。二十枚注文したのだが、松尾写真屋のノッポが間違って十七枚よりよこさないので一枚

は役場前の畑の芋の土寄せ水かけなのでゲートルを巻いて鍬を担いで行く。終って会長の話三十分くらいいいて十一時頃閉会。月が出ていて作業もはかどる。

七月廿二日(木曜)晴、一時雨

嘉瀬駅発八時廿五分の汽車で、愛郷会員十一名小泊行軍へ出発。九時頃中里駅下車いよいよ七里行軍の出発点。早く歩ける人は足にまかせて皆んなを追い越してゆく、十一名が二組に別け、どちらも後になったり前になったり空は晴れてなく行軍によい日和。相内十三湖の湖を見て昼食。この時何十日ぶりの喜雨が降る。昼食が終ると雨止む。道路は埃も立たず行軍も快調。小泊村前まで来て又雨に見舞れる。午後五時頃小泊村到着。そこで寺へ泊まる意見と宿へ泊まる意見がこもこも、七時頃やっと越野旅館に落ち着く、晩飯を皆んな食わず、会長が来なかったので、行軍の途中争いがあったり、皆んな気持が一致しなかったりで

七月廿三日(金曜)曇・雨

昨夜十二時半頃眠むる。蚊張を吊ってくれなかったので、夜半蚊に刺されて目が覚める。起きて蚊張を探してやっと眠むる。隣の部屋の連中も蚊が居るのか、僕達の蚊帳へ二人も三人も入ってくる。夜が明けたが波の音が昨日より高く響いている。雨も降っているので何処へも行かれず皆宿屋の部屋でごろごろ寝転んだり。それに宿の人は不親切である。今度から小泊へ来ててもこんな宿へは泊まるまい。午後二時四十五分のバスへ乗るので昼食を宿の人が忘れているのを急がせてもらう。

又宿を出る時、飯米の米の事で宿のオカミと喧嘩もした。バスも途中何回も故障したりで、やっと中里駅からの終列車に間に合う。本当は楽しい筈の行軍だったが・・・

足りなくなった。昼飯を急いで食って会員の家へ廻しにゆく。忙しいので居ない人ばかりだが、居る人はニコリ笑いながら受けとる。唯輝雄君だけ写さっていない。尚参考のために十七枚で十八円七十七銭也。

六月一日(火曜)晴

この天気、苗もずんずん伸びてゆく。代田掻きもはかどる。田植ももう少し。晩愛郷会例会。会員農繁期のため皆んな遅れてきたので八時半頃開会。会長も出席、十四名。いつもの通り意見発表などやり会長の話を聞く。

須崎為行君新入会。輝雄君、嘉一郎君の話が上手だ。自分は普段いらない口をたたいてこんな時は実に下手で情けない。皆んな帰った後、俊蔵、輝雄、嘉一郎と僕とを呼んで会長が世間話、十二時近くまで。

六月十五日(火曜)晴

晩九時頃より愛郷会例会。会長も欠席して出席者九名。十時半閉会。晩八時半頃再度地震十三日の地震より震れが大きい。

七月七日(水曜)晴れ、やませ強し

支那事変勃発七周年記念、この日我が愛郷会は夏暁の午前四時までに嘉瀬溜池の南側にある忠魂碑前に参集、その辺の除草奉仕を行った。出席者八名、五時頃終る。

七月八日(木曜)晴、やませ

晩、愛郷会の臨時例会あるとの事だが、欠席する。

七月十五日(木曜)晴

長富溜池へ釣にゆく月明りなので八時頃まで、家へ帰って数へて見たら鮎二十七匹。急いで遅い夕飯を食って愛郷会例会に行く。今日の例会

八月二日(月曜)晴

青年団の貯金を集めに廻っていると、輝雄君が愛郷会の例会へ行くのと出合う。そうだとすっかり忘れていた。すぐ役場二階の例会場へ急ぐ。忘れていた自分の心を責める。途中常雄君、俊夫君と出合う、二人も又例会を忘れていたそう。会員の半分以上集まる。小泊行軍の事などが弾む。協議事項略す。

八月十五日(日曜)曇、やませ強し

夜七時より愛郷会の例会。嘉瀬八幡宮にて、出席者十二名、盆踊りの意見など出て、最後に輝雄君より髪を伸ばしている若者への説得対策など、会長も来て熱の入った話を聞いて皆んな力が湧き出るよう。(村はいたる所教室なり。)

八月十七日(火曜)晴

朝八時まで役場前に集合、毘沙門共栄部落の開墾。愛郷会員十一名、部落到着九時半、早速開墾(土起こし)。嘉瀬国民学校では慰安大会があるそうだが、意に解せず頑張る。

盆唄を囃子に一鍬一鍬土煙をあげて掘り起こす。大いに笑い大いに唄って……昼飯も実に旨い。私の指はほどなく豆が出来て力を入れて起こされなくなる。こんな時は太い厚い他の会員の指が羨しい。午後の一服休みに共栄部落の人から西瓜を買ったら二つで三円四二銭実に高い。これも面白いが入っているからだろう。会長さんが一緒に来ていれば唯で貰うによいんだが、とは誰かの弁。午後四時終る。二反歩も起こされな。炎天、背中に汗と土を浴びて悔いなき労働だった。

八月廿日(金曜)晴れ 廿日盆

愛郷会、役場前の畑へそばを植える。種は農会より、会員五名で

九月二日(木曜)曇・雨、二十十日

二百十日百姓の気にかかる日。天候は風少し強いが朝のうちは晴れ。このぶんならばと思っていたが、とうとう夜の七時頃から雨になる。風も強くなる。愛郷会の例会夜七時半から忠魂碑前で開く予定。雨の中秀四郎と惣之進と三人で行ったが誰も来っていない。

途中輝雄とも会って中止となる。今日昼十二時の汽車で我が愛郷会員浜田常男君海軍入団へ出発。山中健治と二人、浜田に愛郷会より餞別二円也、僕も会員として一円餞別をやる。今日十二時の出発を朝の九時頃役場より通知が来たと言うので、なんの仕度も出来ずに出発したとのこと又、父親たちは朝早く山へ行ったので見送りの出来なかったとのこと。(筆者注、戦死した浜田常男君の冥福の意も込め特記する。)

九月三日(金曜)曇、やませ強し

晩、忠魂碑前で愛郷会例会、参集者七名

九月十九日(日曜)晴

晩飯を食ってから嘉一郎宅へ雑誌「青年」を受けとるに行ったら、十五日にやらなかった愛郷会の例会今晚やると云う。輝男君も丁度見え今晩やらなければ、これからは青年学校も毎日あるのではとやれぬと云うので、秀四郎と惣之進も呼びに行ったら映画を見るに行ったという。仕方がない、僕も映画を見てから急いで役場二階の例会へ間に合う会長も後で来てくれる

九月廿七日(月曜)曇

晩、青年学校も休みなので愛郷会の臨時例会を役場二階で開く。教育召集を受けに行く会長(村長)の送別会を兼ねて、来賓は平川久衛門、山中武四郎、りんごを食いながらの愛郷会らしい質素な送別会。会長よ

十二月十六日(水曜)晴

愛郷会の例会今晚役場でやると、俊蔵が馬に乗って知らせにくる。鳴善の湯に入ってから惣之進と為行を誘って行く。二回も例会を欠席したので久しぶりである。出席者十名、青年学校について、ちょっと風変わりな事を決める。九時頃閉幕

十二月廿九日(水曜)晴

三ヶ月の教育応召を終え村長(会長)が四時の汽車で帰還すると言う。待つこと久し。



昭和18年5月5日愛郷会造林終えて

前場役瀬嘉

- (後列右より)
- 小山内嘉一郎
- 鳴海 忠七(前列右より)
- 中村喜代治 吉崎 兼雄
- 浜田 常男 山中長三郎
- 木立 忠 木下 俊蔵
- 吉崎 光治 木立 会長
- 沢田 国春 山中秀四郎
- 秋元惣之進 鳴海 俊男
- 沢田 薫 吉崎 春雄

りに残る話をいろいろ聞く。

九月三十日(木曜)曇、小雨

今日は思い出ばかい日、親とも師とも仰ぐ会長が教育召集で出発した日、十二時十七分の汽車で。愛郷会員は会長に向かって力の限り会歌を歌う。会長も歌った。歌っているうちに目頭が熱くなってきた。涙声になる。声がとぎれる。会員みんな同じ気持ちであった。

十月十日(日曜)曇

午後六時半頃愛郷会の道路修理へ。呼びにきた秀四郎達と、もう寝ていた為行も起こし、さて出てみたが集合場所が決まっていなかったので嘉一郎宅へ行く。嘉一郎初め古町の連中今日のことを忘れていた。ともかく狐崎の街道(シンケ)が悪いと言うのでみんなシンケの街道へ急ぐ。出席会員十一名、月が雲に隠れたり出たり、少し明るい中で九時まで頑張る。

十月十五日(金曜)晴

晩、愛郷会の例会、出席者十一名、稲扱きで皆忙しいので意見発表やらないで早く終わるが、会長にそれぞれ手紙を出す事を決めたので、私はそのまま農会へ行き九時過ぎまで居て会長に手紙を書く。

十月廿四日(日曜)晴れ

晩、愛郷会のそば刈り。暗いので農会の窓から電灯の明りを出して刈る。会員十二名で三十分ばかりで刈ってしまう。未だ八時にもなっていない。日章旗に寄せ書きを四人ずつ書く。

十一月二日(火曜)曇、寒い風

夜愛郷会の例会役場でやるつもりで会員集まってきたが、原勇、山与などまだ呑んでいる。こんな時局にと、会員達今更乍ら驚いて憤慨している。例会場所を嘉瀬八幡宮に移し、静座三十分ばかりやり副会長の話だけで終る。

### ねり屋の女将が永眠

県下一の女大夫として知られた北郡金木町、ねり屋旅館女将角田ちよさんは、一昨年病気のため自宅で療養中であつたが十八日午後一時死去した。行年五十八、ねり屋女将と言えはあの巨体の持ち主かといわれる人で、かつて本紙でも県下一の大女として人気第一位を獲得した人である。金木の名物を失ったと惜しまれている。

(東奥日報 昭和十三年八月十九日)

【解説】「ねり屋のオガ」で通った名物女性。身長五尺四寸六分(一六五センチ)で三十歳のころは体重三十貫(一一二、五吋)を越え、本紙が一万二千号記念事業で「大男、大女」を募った時は四十六歳だったが、なお二十六貫八百刃(二〇〇・五吋)の体重を有し、大女として弘前市の猪股なお子さんとともに栄冠をかち得た女丈夫である。晩年は控え目だったが斗酒なお辞せずの方で、酔えば大臣でも知事でも向うに回して憲政を論ずるといふ方で、政治も好きなら相撲も好き、唄も上手で三味も弾くしマージャンもやるという多趣味、多芸な女性だった。しかし彼女が一番誇りとしていたことは「身体は大きい、足の小さいこと、酒は飲むが裁縫や編物が得意」という、やはり女らしい誇りであった。

疣取りと虫歯を治す大石

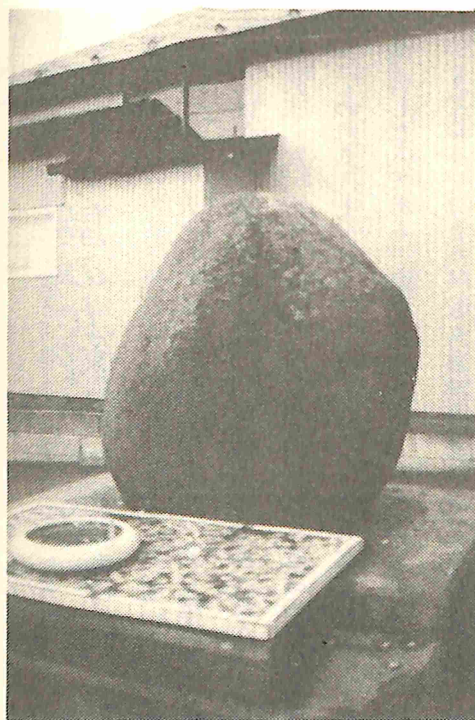
秋元惣之進

嘉瀬の妙光堂というお寺（庵主 木村清海氏）の門をくぐるとすぐ左側に高さ五尺、中四尺位の大きな自然石の丸形の「大石」石仏がホコラに寒々と裸のまま一基ある。隣には地藏様が祠の中に捨体ほど帽子をかぶり着物を着て仲良く並んで鎮座している。

「大石」石仏をよく見ると大石の真中に南無阿弥陀仏と浅く刻んだ文字が見えず隣にも二、三行文字が刻んであるが風化してはっきり見えない。大石」石仏は今から二〇八年位（一七八一）前妙光堂のお寺の入口に納めたという。

大石」石仏様はお寺の（墓地）入口に位置しているので墓参りの人達が一番先に拜むがお正月やお盆にはホゲ（供養）する為に赤飯や団子、菓子など真ッ先に供える。

元来素朴なりの裸の大石」石仏だが昔は疣（伝り疣）取り名大石＝石仏様であった、と言うのは大石」石仏様に供えた箸を借りて「疣取れ、疣取れ」と三回唱えながら疣を箸で突くと一週間のうちに不思議に疣が消えたという、ところがその場を他人にみられると効き目が無かったという。昔の子供は手の甲に数珠繋ぎの様に疣が出て大変だった。これは栄養状態かどうかは知らないが、手の甲に疣がある子供が随分あった。何の変哲もない自然石のこの大石」石仏様は疣だけで無く虫歯も治し



疣取りの大石

に随分と虫歯治療に世話になった。

大石」石仏様の前には何時も箸が有り、虫歯を病むと其の箸を借り、虫歯に差すと「ピタリ」と痛みが止まったという。

其のお礼に新しい箸を倍にしてお返しする習慣があり何時も箸は沢山供えてあった。

昔はお寺前の大石」石仏様の役目として歯痛者の救え主で大石」石仏様の神通力のご利益は大きかった。この大石」石仏様は天明・天保の飢饉の飢餓死者の供養石という説もある。

水難

原田万治

か奈しともかなしかりけ里時ならぬ

水にうせにし人をおもへば

この短歌は飯詰村（五所川原市）味噌ヶ沢部落の上部にある范ノ堤防（范ノ沢溜池）の欠潰により、四人の尊い生命の死を悼む記念碑の歌碑である。

明治四十四年四月五日午後七時、満水状態の堤防が一瞬のうちに崩れ去った。低気圧による前線が風雨をともない全県的に大小の被害をもたらしているが、ことに范ノ沢溜池においては雪解け水と重なり、その水



水難の碑

量は予想をはるかに越えた水量となって大被害を与えたのである。直接水下の味噌ヶ沢部落はもちろん、低地に住む飯詰村民の居宅をひと飲みにし、幼ない子供を交えて四名の溺死者をだしたのである。

四月五日午後七時といえはカンテラに灯が点り楽しい夕餉も終り貧しいながらも一家団欒のひと時であった。

記念碑の裏には被害状況を、家屋浸水八十、破壊十五、流失十五、溺死山口良蔵母ナヨ卅六才、輪島忠太郎妻タカ卅五才、長男嘉四太郎十才、二男松太郎七才ノ四名実に惨を極ム

明治 四十四年七月一日建之

飯詰村長 奥田 順 蔵

となつている。当時の新聞にはどのようなように報道されていたか去る日県立図書館にて調べたところ四月七日の東奥日報の新聞には次のように掲載されている。

飯詰村の惨害

流失二十一戸死者三行方不明一

昨日午前九時四分北津軽郡長より昨夜八時飯詰村溜池堤防約三十間欠壊し、流出家屋十六戸半流失家屋十戸生死不明四人救護其他用意整いたるの電報あり。県庁にては直ちに棟方属を現場に派遣し又は警察部にて五所川原町に出張中の成田警部に電命して救護のことに当らせしめた